

令和5年度

第3回山鹿市地域公共交通活性化協議会 議事録（要旨）

令和5年11月30日作成

山鹿市地域公共交通活性化協議会 会長 柿本 竜治

【 日 時 】 令和5年11月22日(水) 13時00分～14時00分

【 場 所 】 山鹿市役所5階 501会議室

【 出席者 】 14名 (敬称略)

区分	団体・役職	氏名
会長	熊本大学(くまもと水循環・減災研究教育センター長) 教授	柿本 竜治
委員	山鹿市区長協議会連合会(鹿本) 副会長	緒方 昭弘
委員	山鹿市老人クラブ連合会 会長	阿蘇品 欣友
委員	山鹿市地域婦人会連絡協議会 会長	松尾 和子
委員	一般社団法人熊本県バス協会 専務理事	富田 廣志
委員	九州産交バス(株) 営業部営業部長	岩永 謙二
委員	産交バス(株) 営業企画課長	佐藤 正直 代理:須崎 啓士郎
委員	(一社)熊本県タクシー協会 専務理事	吉田 光義 代理:齊藤 ゆか
委員	山鹿市タクシー業者会 会長	宮崎 一雄
委員	九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官	白石 勇人
委員	熊本河川国道事務所山鹿維持出張所 所長	松田 徹 代理:佐々木 徹哉
委員	熊本県 鹿本地域振興局土木部 維持管理調整課長	堀田 敬二
委員	山鹿市 建設課長	淵上 邦広
委員	山鹿市 市民部長	池田 淳志

【 欠席者 】 9名 (敬称略)

区分	団体・役職	氏名
委員	山鹿市区長協議会連合会(山鹿) 会長	徳永 龍二
委員	山鹿市区長協議会連合会(鹿北) 副会長	川崎 美明
委員	山鹿市区長協議会連合会(菊鹿) 副会長	菊川 房継
委員	山鹿市区長協議会連合会(鹿央) 副会長	上田 暢一
委員	堀川バス株式会社 取締役統括部長	田中 智太郎
委員	全九州産業交通労働組合 副執行委員長	貢 博之
委員	九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官	田村 正宜
委員	山鹿警察署 地域交通課長	星子 恭広
委員	熊本県 交通政策課審議員	高松 江三子

【 事 務 局 】 市民部 次長 山城 一夫
地域生活課 課長 豊田 義幸
地域生活課 審議員 田代 絹代
地域生活課 活動支援係長 阿蘇品 邦彦
地域生活課 主任 丸山 和也

【 計画策定業務受託者 】 復建調査設計株式会社 竹隈 史明
河原 慶佑

【 議 題 】

◆協議事項

- (1) 計画策定に係る各種調査結果・問題点について 【資料：P1～P4】
- (2) 網形成計画の評価について 【資料：P5～P8】
- (3) 課題解決に向けた方向性・基本方針（案）について 【資料：P9～P10】
- (4) 今後のスケジュールについて 【資料：P11】
- (5) その他

【 公開状況 】 公 開

【 傍聴者数 】 1 名

【 所 管 課 】 地域生活課 活動支援係 (直通：43-1114)

【 発言要旨 】

◆協議事項

※議事（１）、（２）は一括審議

（１）計画策定に係る各種調査結果・問題点について

＜事務局説明概要＞ 資料【P1～P4】に沿って説明

1 地域公共交通に求められる役割、2 地域公共交通の現状・問題点について説明した。

（２）網形成計画の評価について

＜事務局説明概要＞ 資料【P5～P8】に沿って説明

3 山鹿市地域公共交通網形成計画の評価について、(1)施策・事業等の実施状況 (2)計画目標の達成状況 (3)評価（今後も継続して取り組むべき課題・新たに生じた課題）、4 地域公共交通が抱える課題について説明した。

＜発言要旨＞

委員：地域公共交通に求められる役割について、現計画から観光について新たに追加されているが、どのような意図があるのか。

事務局：山鹿市においてはコロナの影響で観光客の来訪者数が少なくなっており、今後回復を見込んでいる。人口減少が進んでいるなか、観光客の需要も取り込みながら地域公共交通を支えていかなければ、公共交通が成り立っていかない、持続可能性が考えられないという主旨から新たに追加している。

委員：今回の調査で山鹿市以外からの来訪者の交通手段は把握しているのか。車で来訪した場合、市内で公共交通はなかなか使ってもらえないと思うが、調査結果も踏まえて観光の視点を追加したという認識でよいか。

事務局：3ページに一部記載しているが、地域公共交通に対するニーズ調査のなかで、市外からは自家用車で来訪が多く、市内でも自家用車で移動が多い状況である。しかし、コロナ禍からの回復として、市としてインバウンド効果を狙っているため、そういった方々の移動も含め、自家用車だけでなく、公共交通の必要性・重要性を踏まえて役割として追加した。

委員：4ページの問題点において、一部のサービスが重複とあるが、こういったものであると今回の調査で整理しているのか。

事務局：スクールバスと路線バスが同じ路線を運行したり、福祉タクシー等のサービスについても一部重複がみられる状況である。

委員：各事業者は運転手不足の問題を抱えており、補助金を出しても維持していくのは困難な状況となっている。7ページの新たに生じた課題において、移動手段の役割の明確化等が記載されているが、今後は効率的で持続可能な地域公共交通を形成していく必要があると思うため、そのような視点で取り組んでもらいたい。

委員：路線バスにしても、あいのりタクシーにしても、今後利用者が増えて採算性がよくなる見込みがないなか、全国的に自動運転のバス等を試験的に運行している地域もあり、政府の方ではライドシェアについて議論している。そのあたりに関する内容の記載がないが、山鹿市のような山間地が多い地域では、事業者に頼るだけでは限界があると思う。そういった検討も取り組んで良いのではないかと考える。

委員：自動運転やライドシェアについて、今回意向調査など実施しているか。

事務局：今回の意向調査では実施していない。

＜協議結果＞

委員一同、異議なし（承認）

(3) 課題解決に向けた方向性・基本方針（案）について

<事務局説明概要> 資料【P9～P10】に沿って説明

5 山鹿市地域公共交通計画の基本理念・基本方針（案）について説明した。

<発言要旨>

委員：「基本方針① まちづくりと一体となった地域公共交通体系の形成」とあるが、山鹿市としては多核連携型の集約型都市構造の形成を目指していくなかで、地域核の設定が重要となってくると思うが、地域核が合併等の影響で設定されている場合もあり、地域核だからという理由で需要と見合わない場所でも公共交通機関を設定してしまうことがある。これまで山鹿市として核について見直してきたのか。

事務局：実際は総合計画を基に検討していくものだと認識しているが、手元に検討過程の資料がないため、今後確認する。コロナ禍の中で具体的な見直し等は進んでいないと思うが、コンパクト化については検討がなされているため、今後確認する。

委員：「基本方針② 持続可能な地域公共交通サービスへの再構築」とあるが、運転手不足の問題があるため、地域の課題に対して解決の基本方針を定めて事業を進めていくと思うが、運転手不足への対応について施策・事業についてもぜひ位置づけてもらいたい。運賃制度の見直し、二種免許取得支援などを国の方でも取り組んでいる。財政的な支援だけでなく、待機場所や折り返し地点を整備するなど、労働環境全般を改善する施策も有効だと思うので、交通事業者の意見を把握し、施策として取り組んでもらいたい。

委員：多核連携の話であるが、都市計画マスタープランの見直しにおいても旧市町単位でのまちづくりの検討が進められており、これらを集約したまちづくりといった議論までは進んでいないと認識している。

委員：旧市町村を核としている自治体は多いが、山鹿市でも疎密が生じていると思うため、それらを全て地域公共交通で支えていくのは難しいと考える。

<協議結果>

委員一同、異議なし（承認）

(4) 今後のスケジュールについて

<事務局説明概要> 資料【P11】に沿って説明

今後の協議会開催予定時期等について説明した。

<発言要旨>

委員から発言なし

<協議結果>

委員一同、異議なし（承認）

(5) その他

特に意見等なし